

指宿市及び入来町における  
コミュニティに関する独居高齢者の生活実態  
高齢者が自立できる社会形成に関する研究その4

○ 正会員 久野貴行\*<sup>2</sup>  
同 友清貴和\*<sup>1</sup>  
同 佐藤洋一\*<sup>2</sup>  
同 山下剛\*<sup>2</sup>

1. はじめに

ここでは、前編に引き続き指宿市、入来町の独居高齢者とコミュニティとの関係を分析し、鹿児島市の結果と比較を加えながら、特徴を把握する。

2. 調査結果の分析と考察

2-1. 就業状況

鹿児島市においては高齢になるにつれ就業率が下がっている。また入来町においては75歳以上において就業している人はいない。一方、指宿市においては65~69歳の高齢若年層を除けば高齢になるごとに就業率が上がっている。この理由は明白でないが、指宿市は温暖なリゾート地である。(図1)

2-2. 集会の参加状況

老人クラブ参加の割合が高いのは鹿児島市、指宿市、入来町の順であることが分かる。老人クラブ以外の集会を他会とすると、他会においては入来町、鹿児島市、指宿市の順で参加の割合が高くなっている。とりわけ入来町においては、他会参加の割合が62.5%と高い。入来町においては他会が活発に行われているといえる。(図2)

2-3. 最寄りの子供との関係

調査対象者151名のうち子供を有しているのは120名である。

最寄りの子供を見てみると別居距離が近いほど頻繁に面会している。これは鹿児島市、指宿市、入来町の3地区とも同様の結果になっている。子供の面会周期は別居距離に密接に関係していることが分かる。(図3)

2-4. 子供と生活を送らない理由

回答を個人の積極的意志によるものを《積極的独居》、子供に迷惑をかけたくないまたは子供の意志によるものを《消極的独居》、家や墓など守るべきものがあるためのものを《保守的独居》と3つに大別した。

鹿児島市と指宿市においては積極的独居である人の割合が高いのに対して、入来町では消極的独居である人の割合が高い。消極的独居と回答した人の中で子供が帰省して来ても職がないからと回答をした人4名がすべて農村部である入来町であり、都市的性格をもつ鹿児島市と指宿市にはいない。また指宿市においては保守的独居である人がいなく積極的独居である人の割合がかなり高く

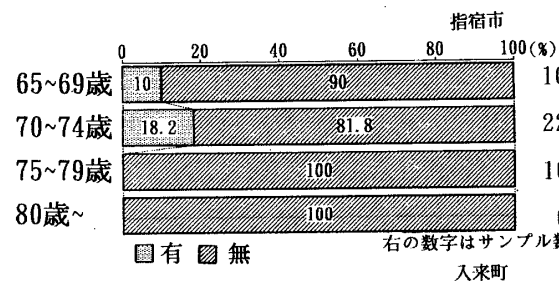
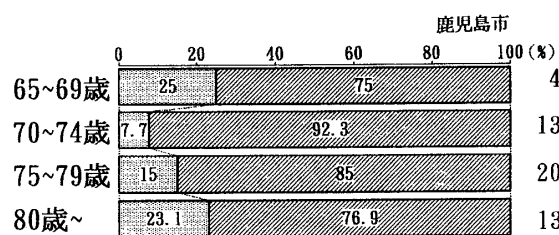
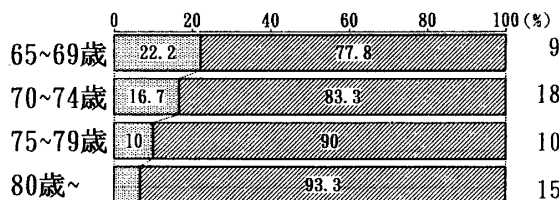


図1 年齢別に見る就業状況

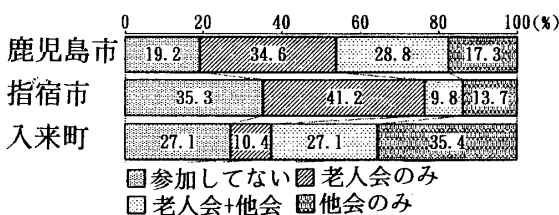


図2 地区別に見る集会の参加状況

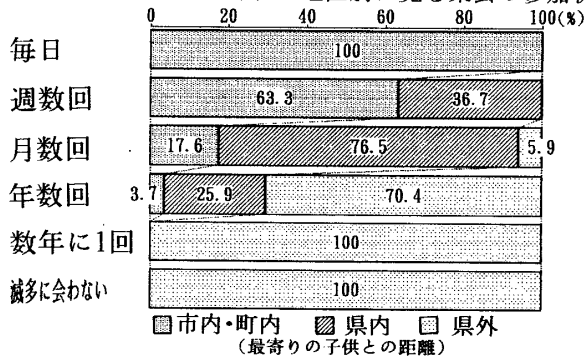


図3 最寄りの子供との面会周期

A study on the life circumstance of the old living alone in their community

A study on the forming society that the old can live themselves part4

Takayuki Hisano, Takakazu Tomokiyo, Youichi Satou and GoW Yamashita

なっている。(図4)

性別に見ると男性は積極的独居の割合が高くなっている。

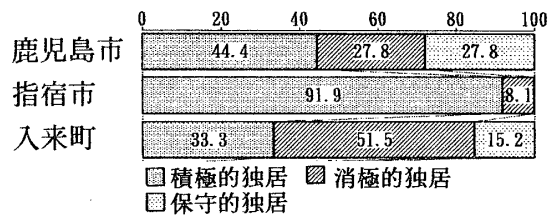


図4 地区別に見た子供と生活を送らない理由

2-5. 隣人との関係

老人クラブ参加状況をクロスしてみると、鹿児島市と指宿市において、老人クラブに参加している人のほうが老人クラブに参加していない人よりも隣人関係が親しいと回答している割合が高い。入来町においては他の2地区と違い老人クラブに不参加のほうが隣人関係が親しいと回答している割合が高くなっている。農村部である入来町においては、隣人関係は老人クラブの参加にかかわらず農村のコミュニティに支えられていると言えよう。一方、鹿児島市と指宿市においては老人クラブと隣人関係は密接な関係にある。(図5)

なお性別に見て、3地区とも隣人関係が親しい付き合いであると回答している割合では、女性が男性を大幅に上回り、女性は男性より隣人関係に積極的であると考えられる。

2-6. 友人との関係

性別に見ると3地区とも友人がいないと回答した割合は、男性が女性を上回り、友人関係において女性は男性より積極的である。

老人クラブの参加状況でみると、鹿児島市では老人クラブに不参加の人のほうが老人クラブに参加している人よりやや友人数が多くなっている。指宿市では老人クラブの参加状況と友人数に関係は見られない。入来町においては他の2地区とは違い、老人クラブに参加している人のほうが老人会に不参加の人より顕著に友人数が多い。このことから鹿児島市、指宿市では老人クラブは友人数には関係なく、入来町では老人会の内容、在り方が他の2地区とは違い、友人数に密接なものになっていると考えられる。(図6) 他会への参加状況で見ると3地区とも他会に参加している人のほうが他会に参加していない人よりも友人数が多い。友人数と他会への参加は密接にかかわっている。(図7)

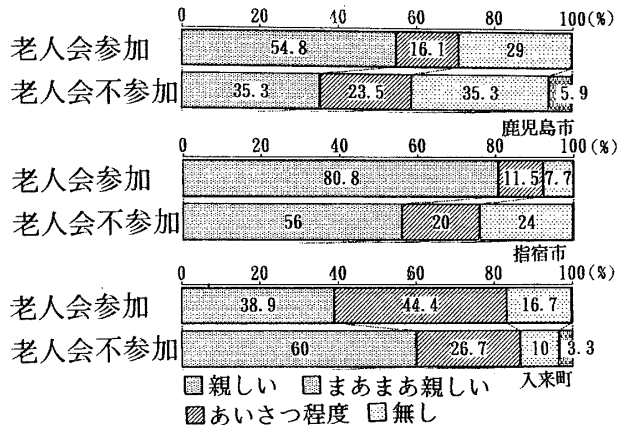


図5 老人クラブに見る隣人関係

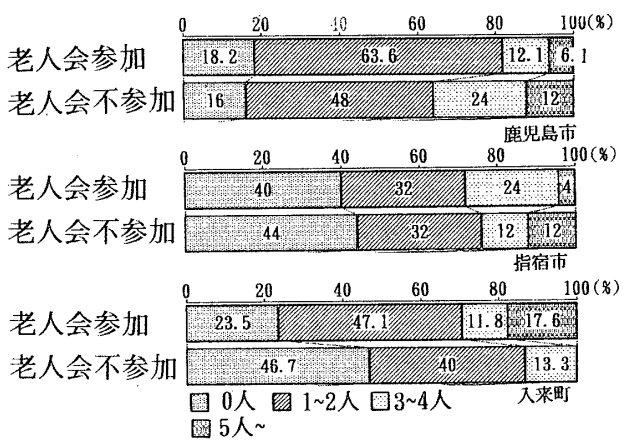


図6 老人クラブに見る友人数

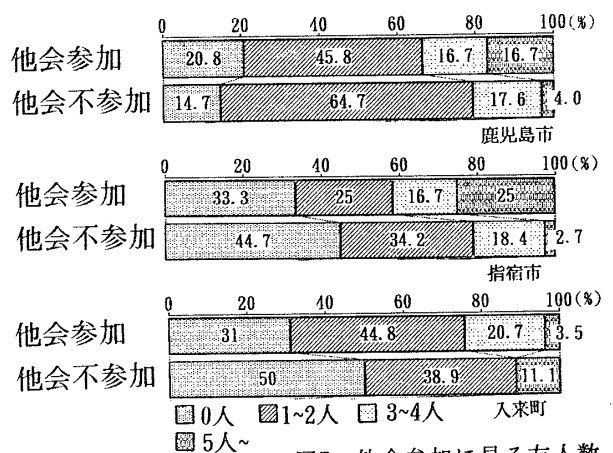


図7 他会参加に見る友人数

3. まとめ

以上の分析から独居高齢者とコミュニティの関係を把握することができた。また地域のコミュニティによって独居高齢者の生活実態に相違があることが分かった。今後はさらに分析をし、問題点の解明をしなければならない。

\*1 鹿児島大学助教授  
\*2 鹿児島大学大学院

Assoc., Dept. of Architecture, faculty of Engineering, Univ. of Kagoshima, Dr. Eng.  
Graduate School, Univ. of Kagoshima.